

第5報 袖山寸法について

福山市立女短大 ○増田智恵 増田茅子

目的 第5報では、第1報の製図法の一部を修正して製作したバイシック形ドレスの着用実験の結果からえた型紙の袖山寸法と人体体型要因との関係を考察し、より適合した型紙袖山寸法を求むようと試みたので報告する。

方法 被験者は第2報に同じ。バイシック形ドレス袖の袖山寸法を採寸寸法袖山（肩先真から人体腋窩部最下端を通る上腕での水平周径に至る鉛直線の体表に沿った長さ）+1.5cmに設定し、第2報同様に着用実験を行った。第2報の人体計測に加えて、ビニールシート分度器（透明ビニールシートに分度器のように10°ずつの目盛を入れたもの）で人体上腕上部を計測した。着用実験の結果から袖山寸法に問題が考えられたので、その補正原因と人体上腕上部計測寸法および胴部型紙寸法との関係から型紙袖山寸法を求むようとする。

結果 すべての袖山寸法補正者がその寸法を大にした。

(1) 袖山寸法補正原因として次のようなことが考えられた。

- i 着衣時脇下り寸法が胴部アームホールを補正した結果大となり設定した袖山寸法では不足した。
- ii 人体袖山線以外の上腕上部が発達しているため平面の布でそれを被う時、採寸寸法袖山より大の寸法が必要であった。とくに上腕における前後腋窩真を結ぶ線上での前部の発達が関係しているようである。

(2) 型紙袖山寸法は、採寸寸法腕付根囲、採寸寸法袖山、上腕での前後腋窩真を結ぶ線の距離などの人体上腕上部の計測寸法を組み合わせた値と相関が認められた。